

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
8	親子でかがやく つながる親子サポートプロジェクト	北区ワーキングマザーサロン Beleza	北区の子育てに奮闘する母親を対象に、子育て中の困り感を共有・把握し、具体的な解決策の提示や、母親同士のつながり創出のきっかけを提供し、精神的な負担軽減の一助となることを目的とする	本事業は、親子が共に参加する活動と、母子分離型の活動という二つのスタイルで複数回実施する。 対象は幼児から中高生までの子どもとその母親とし、活動内容によって子どもの対象年齢を設定する。 親子参加型では、主に幼児・児童を対象とし、親子ヨガや親子でのフィンガーペインティング、簡単なレクリエーション等を通じて、親子が一緒に過ごす時間の充実を図る。 一方、母子分離型では、母親はヨガやレクリエーション、困り感を共有する座談会に参加し、幼児児童の場合は体操、フィンガーペインティング、クラフト等の活動を行う。中高生向けには発育・発達段階や家庭での困り感の軽減に寄与するような哲学対話やメンタルトレーニング等の心理技法を取り入れ、対話を通じた気づきや問題解決の視点を提供する。いずれも保育士資格保有者による託児体制を整え、適宜講師も依頼する。本事業は母親の負担軽減を図ることが目的のため、対象が中高生の場合でも、その兄弟や主催者側の子どもの託児も可能な体制を整える。なお、活動の様子や成果はSNS等で発信する。	500,000
8	マーブル育児交流会	北区発達保護者の会マーブル	孤独に陥りがちな支援が必要な子どもを持つ保護者に託児付きの自由時間を提供して、抱える問題を聞き取りしたり、必要な支援の紹介をしたり、保護者同士交流して地域での繋がりを作る。またマーブルフェスタ2026in北区を通じて地域全体の意識を高めどのような子供でも暮らしやすい環境作りを目指す	①育児交流会 実施日時：令和8年7月から月に1～2回（合計4～8回）、土日の午後3時間（13時半～16時半）、午前9時半から11時半+午後1時半～16時半の土日 場所：北とびあ9階（第2和室と幼児室） 参加予定者：一回につき託児人数10名 参加対象者：支援や休息を必要としている保護者とその子ども（きょうだい児含む） 内容：午後3時間を中心に保育士に子どもを預け、同じ悩みを持つ保護者同士や当会の会員と雑談や情報交換を行い孤独感の解消や地域での繋がりを作る。必要があれば北区で受けられる福祉サービスの紹介（ファミサポなど）やマーブル育児お助け帳の配布を行い、講演会や交流イベントの紹介もする。 ②マーブルフェスタ2026in北区 実施日時：令和8年9月（予定） 場所：北とびあ9階（901会議室、902会議室、第1和室） 内容：保護者・支援者向けの講演会、ブース出展 ・講演会3回～4回ほど（参加費1講演につき1人300円；資料代として徴収） ・発達障害に配慮がある学校の資料の展示、配布、ブースの出展 ・ファミリーサポート事業のファミリー会員の団体登録会の実施（打診中） ・『できるびより』による支援教材・グッズ・文具の体験会・販売会	500,000
8	不登校・登校しづらい親子の孤立防止のための居場所づくり	カスミソウ 自由登校を見守る会	不登校の子どもとその保護者が抱える悩みは理解されづらく、孤立しやすい。 不登校の親子が安心して遊び、学べる場を作り、学校に行っていない時期が不利益にならないような環境を実現する。	①子どもの「好き」を実現する居場所の開催 外に出るのは不安だが、好きなことのためにであれば出かけられるという子どもは多い。家庭以外の居場所や人とのつながりをつくるために、子どもたちの「好き」をキャッチし、それを実現できる場を作る。例：「ポケモンが好き」→仲間とじっくり公園でポケモンGOをしながら散歩をする。「イラストを描くのが好き」→プロのイラストレーターに仕事の話を聞きながらじっくり絵を描く。年に3回。文化センター等。 ②「運動あそび」の開催 不登校の子どもは体を動かす機会が極端に少なくなり、それに悩む保護者は多い。子どもの運動の機会確保と保護者のリフレッシュを兼ねた「運動あそび」を実施。講師はスポーツで地域作りをしているKAMIYA Clubの玉瀬さん。月1回、都の北学園アリーナ。 ③保護者向けの講演会開催 子どもの癇癪、進路、昼夜逆転の生活など、不登校の子どもと保護者が抱える心配事をテーマに、講師を招いた勉強会を行う。悩みの共有と知識を得ることによって不安を軽減。年4回。区内施設（北とびあまたは赤羽会館）で開催。	500,000
8	障がい者とその家族と地域がつながりほっとできる居場所づくり事業	Joining Hands	障がいを持っていても気楽に入店できる民間の施設がほとんどない現状は障がい者やその家族にとって閉塞地域で暮らしている状態である。そこでいろいろな人たちと出合いを楽しみ、飲食ができるサロンを月1回解説する。	〈日時〉第2土曜日を予定 〈場所〉北区豊島1-19-9ゴダイビル6FJoiningサロン 〈参加対象者〉障がい者とその家族 午後2時開場、くつろぎタイム：事前予約していた障がい者とその家族3～6組、入室後くつろいでらう3時ティータイム、3時30分～お楽しみタイム、5時～夕食タイム、6時終了。ボランティアを含む開場スタッフ、調理スタッフが1時から準備。2時から対象者を受け入れJoiningサロン活動を始める。ティータイムでは参加者にもお茶のお手伝いも願います。会話が弾むようにファシリテートする。お楽しみタイムには、地域で活躍している演奏家や趣味をサポートしてくださる人を講師として招く。講師の方、スタッフ、ボランティアさんも交えて5時から簡単な会食（地域食堂的な雰囲気）を皆で楽しむ6時終了。	300,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
8	SDGsライフ普及活動事業「明日塾」等の開催	北区リサイクラー活動機構	SDGsの理念を「知識」にとどめず、北区の地域住民が自らの暮らしの中で具体的な行動として実践できるよう、学びと体験の機会を提供する。映画上映、ワークショップ、継続的な学習会を通じて、環境負荷の少ない生活様式への理解を深め、地域全体で持続可能な社会づくりを進めることを目的とする。	①SDGsシネマ「明日塾」 映画上映と講演(ブックトーク)を通じ、「タイバ・コスバ重視」の現代社会において、SDGsの本質である「ていねいな生き方・暮らし方」を見直す機会を提供する。 ② SDGs「明日塾」ワークショップ 「はじめてみよう、コンポスト! これならできるベランダで気軽にコンポスト Vol. 2」家庭から出る生ごみの削減をテーマに、ベランダでも実践できるコンポストを体験的に学ぶワークショップを実施し、日常生活での行動変容を促す。 ③SDGsローカル・アクションゼミ(勉強会)「水素エネルギーと私たちの暮らし Vol. 2」水素エネルギーを題材に、再生可能エネルギーと私たちの暮らしとの関係を継続的に学ぶ場を設け、地域での理解と議論を深める。	300,000
8	荒川流域防災まちづくりタウンミーティング	荒川流域防災プロジェクト	豪雨による荒川氾濫時に誰一人取り残さず全員が避難できる仕組みづくりのため、区民と区内外の住民・NPO・行政・議員との平時からのネットワークづくりと区民の避難先の確保を目指す。	(1)タウンミーティングの開催 災害時に高齢者・乳幼児・妊産婦・障がい者・外国人等を含め区民全員が避難し生活できる仕組みづくりをめざし、区民、北区周辺の住民、国・都・区の議員や行政職員、NPO等が意見交換するワークショップを行う。 ◆実施内容: ①国の防災計画の説明(国会議員より) ②自治体の防災計画の説明(北区より) ③荒川氾濫被害想定と課題の説明(有識者、荒川下流河川事務所より) ④災害弱者が抱える問題と課題の共有(住民代表より) ⑤防災に関する住民ニーズのヒアリング(グループ討議) ⑥北区民の避難先・避難方法に関する議論(グループ討議) ⑦討議内容発表(参加者有志より) ⑧参加者アンケート ◆実施回数: 3回(各回2~3時間) ◆参加者数: 各回50~100名 ◆実施場所: 浮間・赤羽・王子の3地区(例: 赤羽会館 小ホール等) (2)区内イベントへの出展 荒川氾濫に関する防災意識啓発と本事業への参加呼びかけを目的に、区内で開催されるイベントにVRやゲーム等も活用した展示を出展する。	300,000
8	不登校のお子さんと家族のための安心・安全な居場所「ココブレ」	cocomori	不登校のお子さんとその家族が、安心して過ごせる居場所を提供することで、同じ悩みを持つ大人同士が交流したり、子どもが学校以外の場で自分のペースで社会との繋がりを育み成長することを目指す。	対象者: 不登校のお子さん(5歳~中学生)とその保護者 ①ココブレイベントデー(会場: 王子本町2丁目自治会館) 月に1回、「ココブレイベントデー」を開催。利用者が安心して過ごせる居場所にするため事前予約制にし、カウンセラーと、不登校の親子支援に慣れているサポーターで対応する。ココブレイベントデーでは、工作やワークショップ、お楽しみ会などのイベントを企画する。お子さんが家族以外の他者と交流し社会と繋がるきっかけにしてみよう。 ②ココブレビラティスデー(会場: 王子本町2丁目自治会館) 月に一回、不登校のお子さんに日々対応している保護者の方が自分自身の心と身体のケアのための時間をとってもらうことを目指し1時間程のビラティスレッスンを開催する(追加資料②)。大人がレッスンに参加している間、子どもはカウンセラーと子どもたちで過ごし小集団で楽しく過ごすことを目指す。 ③個別相談デー(会場: カウンセリングルームcocomori) 月に1回、ココブレ利用を検討している親子と支援者を対象に、カウンセラーとの顔合わせや、ココブレの事前説明を行う。(対面またはオンライン)	300,000
8	地域シルバー世代のスマホ使いこなし支援	スマサポ	高齢者施設等からの依頼を受けて、初心者向けスマートフォン講座を請け負う等のボランティア活動を通じて、シルバー世代のITリテラシーの向上により地域全体の情報格差が減少することを目的としている。	①初心者向けスマートフォン講座の請負い 初めて学ぶアプリや操作でも、利用するシーンがイメージできるような具体的な事例を伝え、実習は基本的にマンツーマン形式で行い、受講生が安心して学べるサポートに徹した指導を行う。きらりあ北、老人いこいの家などの高齢者施設と連携して、月例の無料講座を開催する。 ②初心者向けスマートフォン相談会の請負い シルバー世代の操作の躓きは、様々なため、相談会が有効であると思われる。同じく高齢者施設と連携して、月例の無料相談会を開催する。 ③新たな教材、ラーニングシステムの開発 講座、相談会などを通じて得られるニーズに応えるべく、新たな教材を作成する。また、テキスト記載事例の実際の操作を受講生と共有できるような、より分かり易いラーニングシステムを開発する。	300,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
8	歌って知ろう！童謡・こころのうた教室	一般社団法人地域創成音楽FURUSATO	本事業は音楽(歌唱)を用いた高齢者の生きがい支援並びに居場所づくり、健康づくりに寄与するもので、UR機構王子五丁目団地と共催し、心身の健康及び学びの場提供を目的とする。	高齢者の居場所づくり・生涯学習・間こもり予防などを目的に、音楽専門家によるレクチャーやソングリーダーによる歌唱誘導により声を合わせる。またプロ歌手による模範演奏などを体感する。参加費は助成を受けることにより無料とし、広く区民に開放する催しとしたい。また、講習内では区民に馴染みの薄い「北区のうた」も取り入れ、区政に関心を持って頂く一助とする。本事業は当法人とUR機構王子五丁目団地の共催事業として団地及び周辺住民に参加を募る。 開講時間は1回に付き約1時間半～2時間程度 10:30～もしくは13:30開始予定。はじめに簡単な体操、発声練習から開始する。都度8曲ほどを準備し、歌詞カードを配る。その内容は導入しやすい唱歌や童謡から始まり、昭和の名曲、そして最後に新曲に取り組む。曲間にはその曲が誕生したエピソードや歴史的秘話をレクチャーし、歌う+αの学びを盛り込む。単に身体を使うだけでなく生涯学習の一助も担う。休憩にはお茶を囲んで地域のコミュニケーションを活性化する狙いがある。	300,000
8	デンマーク式自転車ゲームで「遊びながら学ぶ」子ども自転車教室in北区	北区ポタリング部	デンマーク式自転車ゲームを通じ、子どもたちが遊びながら自転車操作技能と安全意識を習得し、将来的な交通事故の未然防止と地域全体の交通安全向上を目指す。	■対象、開催場所、頻度 ・対象:未就学児(主に3歳児から5歳児)1回あたり10名を想定 ・場所:FCSPAЕ(栄町)、カトリック赤羽協会信徒会館ホール(赤羽)、Hintmation(赤羽台) 開催時期:R8年9月、11月、R9年2月の計3回予定 ■プログラムの特徴 ・デンマーク式のマニュアルに基づいた「自転車ゲーム」を実施 ・ブレーキ付きランニングバイクを使用し、走ると同時にブレーキで止まることを意識づけ ・交通標識や信号機の模型を使い、交通ルールの基本を教える ・楽しく学びながら、公道デビュー時に必要な技能を公的に取得 ■指導体制 ・CCSP※の提唱する専門知識を持つ講師(本団体構成員)が指導 ・保護者もゲームのサポート役として参加し、家庭での安全教育につなげる ・学生ボランティアと連携し、多世代が交流しながら安全教育を支える	300,000
7	ボールdeウォークによる「日本シニアが輝く健康都市北区」へ	北区ボールdeウォーク推進協議会	超高齢化社会を迎えた現今、高齢者が支えられ、ケアされるのではなく自ら健康づくりの主役になり、いつまでも地域の人たちと楽しく活動できる社会を、ボールdeウォークの実践を通して実現する。	①赤羽会館・北とびあ・滝野川会館での3楽校(赤羽楽校、王子楽校、滝野川楽校)について。 各楽校、年に4回、講演、体験会(初回は無料)を実施する。(年間4回5 x 3楽校=12回) ②新たに新設をめざす、豊島5丁目楽校(団地集会所)、王子5丁目楽校(団地集会所)、浮間楽校(ふれあい館)、滝野川東楽校(滝東ふれあい館)、田端楽校(田端ふれあい館等)について。 順次3か月ごとに集中して、各3回、講演・体験会(初回は無料)を実施する。(3か月に3回X5か所=15回)その間に、実質的にリーダーになっていただける方を発見(または既にリーダー講習を受けた方をリーダーとして派遣し、リーダー(楽校長)を中心に徐々に回数を増やしていく。(第2段階は月2回、第1、第3〇曜日等)スタッフが不足の場合は、北区ボールdeウォーク協会からスタッフを派遣あるいは、当該グループの中からスタッフを募集する。 ③全体として、一は、並行して行う。他の楽校へのスタッフ派遣は必要最小限とし、できる限り当該楽校で、完結させる。保険等の費用をまかなうため、原則として1回500円の会費を徴収する。ボールレンタル代Fは1回300円とする。(ただし、楽校会員の事情により、会費を免除することができる。楽校運営マニュアルを作成し、運営に関しては、協会のサポートのもと、各学校が行う。	500,000
7	北区多分化共生・ホジボジきまフェスタの開催	北区多文化共生・ホジボジきまフェスタ実行委員会	日本のインバウンド需要増加のなか、北区でも益々の外国人区民の増加が見込まれます。そんな北区の未来を見据え、『日本人であっても外国人であっても互いに異文化を理解しようと努め、一人ひとりの違いを認め合い、協力し合える豊かなまちを形成する北区多文化共生社会の実現』を目指します。 春ターゲット:北区在住の日本人及び外国人を中心とした、全ての人。	①ホジボジ浮間公園ランウェイ ・国籍、世代、性別等を問わず、各々自由なスタイルで参加いただくファッションショー。 ・プロのトップヘアメイクアップアーティスト率いるヘアメイクチームが参加者のヘアメイクの監修を行います。 ②各種ステージ ・世界各国のステージ。フラダンス・キッズチアリーディング・ウクライナの服飾文化紹介等のダンスショー。 ③キッチンカー・世界各国のメニューを取り揃えます。 ④物販・ワークショップ・国際色豊かな出店を予定しています。 ⑤ホジボジガレージ -各国の子どもが共同で運営、子どもがお客様となる多文化交流フリーマーケット。	500,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
7	The PICNIC(飛鳥山公園マルシェ+野外映画観賞会事業)	北区Hack-a-park	北区のランドマークとなる飛鳥山公園を活用としたクリエイティブな公園活用の提案とその情報発信による地域のイメージアップ、また地域の新しいコミュニティの形成の場としたい。	開催場所：飛鳥山公園内 芝生エリア 開催日時：11月2日(日) 11:00～16:00 マルシェ 15:00～17:30 音楽生演奏 17:30～19:00 野外映画上映会 ※雨天中止 ※日没後上映開始 屋間の時間は北区のクリエイターが中心のチームによるマルシェ(軽食・弁当・スイーツの販売、雑貨・プロダクトで商品の展示販売など)やワークショップ(親子で楽しめる制作など)を開催。 映画の上映時間が近づくと、ミュージシャンの音楽の生演奏が聞こえてきて、いつもの公園とは違ったワクワクした雰囲気の間日常感を演出します。 日没後に野外映画を上映開始。自由なスタイルで野外映画を楽しみます。 芝生広場に隣接するレストランにも、協力を仰ぎ、連携して盛り上げていけたら良いと考えています。	500,000
7	北区におけるワーキングマザーのワークライフバランス改善支援事業	北区ワーキングマザーサロン Beleza	北区においてワーキングマザーを取り巻く諸問題を把握し、具体的な解決策の提示や、ワーキングマザーの心身の負担軽減を目的とする。	本事業は大別して2つのスタイルで行う。 一つ目は、親子が共に参加する講座である。講座は60分/回で、①②共に、当団体会員が直接支援する。支援サポートとして大学生アルバイト2名を配置する(詳細は以下参照)。 1. 親子参加型講座(6月～7月) ① 親子で楽しめる簡単なマッサージやレクリエーション・あそびを紹介する。 ② サバナナがテーマの絵本の読み聞かせを行い、フィンガーペインティングでイメージを具現化し、その作品の前で、親子ヨガでサバナナの動物になりきる表現遊びを行う。 二つ目は、シッターを手配し託児を行う傍ら、母親の気分転換や自分時間を充実させるための活動である。同時に託児中の子どもが心身をフルに活用して楽しめるプログラムも行う。半日単位(午前の部、午後の部)で実施する(詳細は以下参照)。 2. 託児付きで親子が別々に活動を行うイベント(8月～12月) ① 母親・ヨガやレクリエーションの講座、困り感の共有のための座談会 ② 託児中の子ども・フィンガーペインティング、英語で体操あそび、レクリエーション等 また、インスタグラム等のアカウントを開設し、これらの活動や成果についての情報発信を随時行う。	500,000
7	さくらんぼの赤ちゃん食堂	さくらんぼ食堂	離乳食が始まり、何かと悩み多い保護者むけに実施。子どもには離乳食、保護者には軽食を提供。親子で集まり、離乳食づくりのヒントを伝え、アドバイザーを交えて悩み解消につなげる。	赤ちゃん食堂の開催 孤立しがちな育児の応援をするために、実施。離乳食が始まった頃の赤ちゃんや二人きりだと気持ちも減入りがち。そんな時に同じような境遇の親子と出会う場の提供、離乳食づくりのコツやヒントを体得してもらう。(技術的な育児支援)たまには食事作りから解放されてのんびりと実家に帰ったつもりで食事を食べてもらう。(心理的な育児支援)また、助産師や保健師、栄養士など専門家の立場からのアドバイスをもらえるような情報収集のきっかけになるとよいと願う。毎回、離乳食づくりの専門栄養士に同席してもらい疑問や不安なことなどの解消に努める。	200,000
7	地域シルバー世代のスマホ使いこなし支援	スマサポ	高齢者施設等からの依頼を受けて、初心者向けスマートフォン講座を請け負う等のボランティア活動を通じて、シルバー世代のITリテラシーの向上により地域全体の情報格差が減少することを目的としている。	① 初心者向けスマートフォン講座の請負い 初めて学ぶアプリや操作でも、利用するシーンがイメージできるような具体的な事例を伝え、実習は基本的にマンツーマン形式で行い、受講生が安心して学べるサポートに徹した指導をう。きらりあ北、老人いこいの家などの高齢者施設と連携して、月例の無料講座を開催する。 ② 初心者向けスマートフォン相談会の請負い シルバー世代の操作の躓きは、様々なため、相談会が有効であると思われる。同じく高齢者施設と連携して、月例の無料相談会を開催する。 ③ 新たな教材、ラーニングシステムの開発 講座、相談会などを通じて得られるニーズに応えるべく新たな教材を作成する。また、テキスト記載事例の実際の操作を受講生と共有できるような、より分かり易いラーニングシステムを開発する。	200,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
7	SDGsライフ普及活動事業「明日塾」等の開催	北区リサイクラー活動機構	環境問題を地球規模で捉えつつ、地域で具体的な行動を促進するため、学びと実践の場を提供し、地域住民の環境意識を高め、持続可能な社会の構築を目指す	事業実施予定日 2026年3月14日（開始）～2026年3月14日（終了） 助成事業の内容 実施日時：2026年3月14日（土）13：30～16:00(予定) 場所：北とびあドームホール北区王子1丁目11-1 参加予定者：・100名 本助成事業では、地域住民のSDGsに対する理解促進と行動変容を目的に、以下の3つの企画を実施します。 (企画1)SDGs関連の映画の上映 映画を通じてSDGsの課題を視覚的かつ感動的に伝え、上映後の意見交換で参加者同士の学びを深め、地域全体のSDGs意識向上を目指します。 (企画2) SDGs講演会の開催 専門家や実践者による講演を通じて、SDGsに関する知識や行動のヒントを提供し、住民が地域や日常生活でSDGsを実践するきっかけを作ります。 (企画3)明日塾の紹介と勉強会の案内 明日塾の活動を紹介し、勉強会を通じて住民がSDGsについて継続的に学び、行動するための場を提供します。	200,000
7	不登校のお子さんと家族のための安心・安全な居場所「ココブレ」	cocomori	不登校のお子さんとその家族が、安心して利用できる居場所を提供することで、同じ悩みを持つ大人同士が気軽に話せたり、子どもが学校以外の場で社会との繋がりを楽しく維持できることを目指す	対象者：不登校のお子さん（5歳～18歳）とその保護者 ①オープンデー 月に1回、不登校やまだら登校などのお子さんとその家族のための居場所「ココブレ」（ココモリブレイス）を提供。利用者が安心して過ごせる居場所にするため事前予約制にし、カウンセラーと、不登校の親子支援に慣れているサポーターで対応する。ココブレでは、お子さんのニーズに合わせて自由に過ごしてもらい、家族以外の他者と交流し社会と繋がるきっかけにしよう。 ②イベントデー 不定期で、お子さんに日々対応している保護者の方のケアを目的とした企画を開催する。カウンセラーの講話、ピラティス（追加資料②）、ワークショップ等、大人が子どもから離れて自分を大事にする時間を用意し、大人が参加している間は別室でお子さんの過ごせる居場所を用意。お子さん向けの企画に参加したり、自由に過ごしてもらおう。 ③ニーズに合わせた個別対応 ココブレの利用を検討中の、家から出ることが難しいお子さんを対象に、オンラインまたは戸口訪問でカウンセラーと顔合わせをし、初めての場所が苦手なお子さんでも安心してココブレを利用できるよう関係づくりを行う。	200,000
7	マーブル育児交流会	北区発達保護者の会マーブル	孤独に陥りがちな支援が必要な子供を持つ保護者に託児付きの自由時間を提供して休息したり、同じ境遇の保護者同士で話したりすることにより、地域でのつながりを作る。	実施日時：令和7年8月から月に1～2回（5～7回） ※事業収支予算は7回 午前2時間（9時半～11時半）と午後3時間（13時半～16時半）を4回ずつ 場所：北とびあ9階の和室と幼児室 参加予定者：1回につき最大5組の親子 参加対象者：支援が必要な保護者とその子ども（きょうだい児含む） 午前2時間または午後3時間保育士に子どもを預け、同じ悩みを持つ保護者同士や当会の会員と雑談や情報交換をしたりするのんびりと過ごすことにより、孤独感の解消や地域での繋がりを作る障害受容の段階によっては要望があれば児童発達支援の話や、支援を受ける方法、当会や北区児童発達支援センターでの保護者の会にもお誘いする。	200,000
6	飛鳥山公園マルシェ＋野外映画鑑賞会事業	北区Hack-a-park	北区のランドマークとなる飛鳥山公園を活用としたクリエイティブな公園活用の提案とその情報発信による地域のイメージアップ、また地域の新しいコミュニティの形成の場としたい。	開催場所：飛鳥山公園内 芝生エリア 開催日時：11月上旬（予定）※雨天時は延期 昼間の時間は北区のクリエイターが中心のチームによるマルシェ（有機野菜・天然蜂蜜・米粉スイーツ・手作りパンの販売、木工プロダクトの展示販売など）やワークショップ（街歩き、子供向け制作など）を開催。映画の上映時間が近づくと、ミュージシャンの音楽の生演奏が聞こえてきて、いつもの公園とは違ったワクワクした雰囲気の中で非日常感を演出します。 日没後に野外映画を上映開始。自由なスタイルで野外映画を楽しみます。芝生広場に隣接するレストランにも、協力を仰ぎ、連携して盛り上げていけたら良いと考えています。	500,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
6	3x3プロバスケットチームで作る「みんながひとつになれる場所」	ASUKAYAMACHERRYBLOSSOM MSスポーツまちづくり推進実行委員会	3×3バスケットボールを1つのコンテンツとしたイベント開催をすることによって地域の活性化と共生社会の実現を目指す。	目的：3x3バスケットボールを一つのコンテンツとしたイベント開催をすることによって地域の活性化と共生社会の実現を目指す。 日時：9月中旬～10月上旬 ※雨天時は翌週へ延期 場所：飛鳥山公園にて開催(雨天時は翌週へ延期) 参加予定人数：100人 参加予定団体：公募バスケットチーム(8チームカテゴリ検討中)、福祉事業所団体、キッチンカー、知的障害チアリーディング、車いすバスケット(東京JFWBC) 参加対象者：障がいの有無に関わらずどの年代の、誰でも楽しめるイベントを目指す。 ・3x3バスケットボールを1つとして扱い、一般参加チーム(知的障害バスケット含む)を公募し総当たりで競うイベントを開催する。競技時間の合間には知的障害チアリーディングのパフォーマンスや車いすバスケット体験を行い多様性の理解を深める活動を盛り込んでいく。また、コート周辺には福祉事業所制作物の出店やキッチンカーなどを設置し、誰もが楽しめる『みんながひとつになれる場所』を目指す。	500,000
6	北区ボール de ウォーク楽校の展開と地元高齢者リーダーの活躍	一般社団法人 ボールdeウォーク推進協議会	区内のボールdeウォークリーダーが中心になって、多くの区民がボールdeウォークで区内を歩いて北区の自然と歴史、文化に触れながら健康づくりの主役となり、健康で明るい北区づくりに貢献したい。	①昨年9月に王子、赤羽、滝野川各地区1校(計3校)開校したボールdeウォーク楽校を各地区2校(計6校) 毎月2回開催に拡大する。楽校は単に歩くだけでなく、気軽にいろいろなことを感想や意見を述べ合い話し合える「街中サロン」としての役割を目指す。 ②ボールdeウォーク講演会・体験会を王子、赤羽、滝野川で計3回開催する。 ③ボールdeウォークのリーダー養成講座を開催する 。 月1回×6ヶ月=計6回実施し、受領者には終了証を授与、リーダーとして活躍してもらう。 ④11月に北区民に広く呼びかけて北区ボールdeウォークフェスタを開催する。コースは新札の肖像で話題の渋沢栄一翁のゆかりの場所をたどるものとする。 ⑤懇親会、食事会などの開催及び本事業の目的に資する事業。	500,000
6	さくらんぼの赤ちゃん食堂	さくらんぼ食堂	離乳食が始まり、何かと悩む多い保護者むけに実施。子どもには離乳食、保護者には軽食を提供。親子で集まり、離乳食づくりのヒントを伝え、アドバイザーを交えて悩み解消につなげる。	赤ちゃん食堂の開催 孤立しがちな育児の応援をするために、実施。離乳食が始まったころの赤ちゃん和二人きりだと気持ちも滅入りがち。そんな時に同じような境遇の親子と出会う場の提供、離乳食づくりコツやヒントを体得してもらう。(技術的な育児支援)またには食事作りから解放されてのんびりと実家に帰ったつもりで食事を食べてもらう。(心理的な育児支援)また、助産師や保健師、栄養士など専門家の立場からアドバイスを与えるような情報収集のきっかけになるとよいと願う。毎回、離乳食づくりの専門栄養士に同席してもらい疑問や不安なことなどの解消に努める。	200,000
6	つながろう つなげよう ぽっぽコンサート2024	ねこの手	誰でもが気軽に行かれる近くの会場で、地域の観客や演奏者、スタッフも皆で楽しめるコンサートを開催する。開催時のみならず過程も含め、地域の人々が顔見知りを増やし、交流や親睦を深めていくことを目的とする。	①「つながろうつなげようぽっぽコンサート2024」の開催 東田端ふれあい館や新町コミュニティアリーナなど地域の会場を確保し、プロの演奏者や地域の音楽グループなどが演奏するコンサートを開催する。年度の前半にプロの演奏者に依頼し。後半には「令和5年度地域づくり応援団事業つながろうつなげようぽっぽコンサート」の実施によりつながった個人やグループ・団体にも出演や協力を依頼する。 ②ボランティアスタッフや演奏者、音楽グループと共に内容等を検討する 運営に参加してくれるボランティアスタッフ(団体や個人)を募り、年間で3回以上はコンサートを実施していく。各回の定員は会場の広さ・出演者の人数、また感染症対策の必要性によって決めるが、60～80人を考えている。 ボランティアスタッフや演奏者、音楽グループと皆でコミュニケーションを取りながら、コンサートの準備を進め、交流・親睦を図っていく。	200,000
6	地域シルバー世代のスマホ使いこなし支援	スマサポ	高齢者施設等からの依頼を受けて、初心者向けスマートフォン講座を請け負う等のボランティア活動を通じて、シルバー世代のITリテラシーの向上により地域全体の情報格差が減少することを目的としている。	①初心者スマートフォン講座の請負い 初めて学ぶアプリや操作でも、利用するシーンがイメージできるような具体的な事例を伝え、実習は基本的にマンツーマン形式で行い、受講生が安心して学べるサポートに徹した指導を行う。 ②初心者向けスマートフォン相談会の請負い準備 シルバー世代の操作の躰きは、様々なため、相談会が有効であると思われる。同じく高齢者施設、自治会、シニアクラブとも協議しながら、相談会の請負を探っていく。下期より月一回程度を目標に検討を進める。 ③新たな教材の開発会議の開催 講座、相談会などを通じて得られるニーズに応えるため、毎月定例会議を開催し、新たな教材を作成する。	200,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
5	北区ボール de ウォーク楽校の開設と高齢者リーダーの養成	一般社団法人 ボールdeウォーク推進協議会	北区の高齢者が、ボールdeウォークの実践を通して、支えられケアされるのではなく自ら健康づくりの主役になり、地域の人たちと楽しく活動して健康寿命を延伸する。	①北区ボールdeウォーク楽校の開設 王子、赤羽、滝野川各地区において毎月1回ボールdeウォーク楽校を開催、公認指導員のもとに講義と実技を実施。 ②北区ボールdeウォークリーダー養成講座の開催 9月と12月より専門講師の下、各毎月2回、3ヶ月間計6回の北区ボールdeウォークリーダー養成講座を区内施設で開催。	500,000
5	さくらんぼの赤ちゃん食堂	さくらんぼ食堂	離乳食が始まり、何かと悩み多い保護者むけに実施。子どもには離乳食、保護者には軽食を提供。親子で集まり、離乳食づくりのヒントを伝え、アドバイザーを交えて悩み解消につなげる。	孤立しがちな育児の応援をするために、ひとりじゃないことを実感してもらう「赤ちゃん食堂」を開催。 離乳食づくりのコツや実際に食べてもらってヒントを得てもらう。助産師や保健師、栄養士など専門家の立場からのアドバイスをもらって元気に明日につなげてもらう。	200,000
5	つながろう つなげよう ぽっぽコンサート	ねこの手	近年、地域において「人と人との繋がりが薄くなっている」と言われている中、誰でもが気軽に行かれる場(ふれあい館等)での無料の楽しいコンサートを開催することで、地域の人が集まるキッカケを作り、顔見知りを増やし、その後に繋がる交流や親睦を図ることを目的とする。	誰でもが気軽に行かれる場(ふれあい館等)での無料コンサートを開催。 夏にプロミュージシャン、秋に地域の音楽グループが出演。各回、親子向けと、大人向けの2部入替制とし、感染対策を考慮しながら、地域の人が集まるキッカケを作り、顔見知りを増やし、その後に繋がる交流や親睦を図ることを目的とする。	200,000
4	青少年の薬物乱用防止	NPO法人 青少年健康カサポート ラボ・ジャパン	区民が「薬物乱用の実態」への理解を深め、様々な対応の仕方について学ぶ場を提供する。薬物乱用防止教育で重要である一次予防の方策として「ライフスキル」を体験する場を設け、その普及啓発を図る。	① 青少年薬物乱用防止の指導者向けテキスト作成(プログラム構築) ② 青少年薬物乱用防止シンポジウムを開催する。メインシンポジストは精神科医を招聘。他のシンポジストは本会理事で薬物乱用防止テキスト作成委員会が担当する。シンポジウムでは制作テキストを資料として活用する。 ③ 「ライフスキル」ワークショップ開催する。 1.基礎編(15人)・コミュニケーションスキル・意思決定・広告分析等(8月・全日) 2.応用編(15人)・セルフエスティーム(秘密の友達)・コラージュ・ストレス対処スキル他(10月・全日) 2回参加者にはサポートアドバイザー認定書授与。 1回参加者には参加証授与。 参加費1回3,000円。	500,000
4	渋沢栄一「無心庵」再興プロジェクト～次世代ワールドワークショップ	渋沢栄一無心庵再興プロジェクト準備室	渋沢栄一の精神を次世代へ繋ぐため、茶室「無心庵」再興をテーマに事業を企画。拠り所となる文化サロンとして地域の活性化を図り北区から世界へ日本文化と渋沢栄一の精神を発信する。	1. 渋沢栄一の精神を学ぶ～渋沢久栄氏講演と茶会 渋沢栄一の妹でいの子孫である渋沢久栄氏より渋沢栄一の精神やその思考を学ぶ。続いて学んだばかりのおもてなしを実践するために「無心庵」茶会を開催。 2. 次世代へ繋ぐ「無心庵」ワークショップ～中央工学校+フランス学園 茶室「無心庵」をテーマに茶室が果たしてきた役割や価値について学び、無心庵の復元模型を造る。 3. 「無心庵」を世界へ～VR映像で繋がるワールドオンライン茶会 無心庵の360°映像を制作してオンライン上でのワールド初釜茶会を開催。区内の学生・社会人と、New York、Paris、Buenos Aires、Brisbane、Shanghai、Ugandaなど中心に五大大陸の世界と新年を祝いオンラインで繋ぐ！	500,000
4	産後女性の筋力回復と啓発、疾病予防事業	一般社団法人 日本産後ダイエット協会	「産後の筋力ケアに特化」「産後のオンラインケア」という新しい産後ケアスタイルを全国に先駆けてスタートし、時代や環境に合った産後ケアを提供できるまちづくりをする。	背景：産後の筋力低下は著しい。特に切迫早産による長期入院者のそれは退院時に自力歩行ができなくなるほど。この筋力低下は産後鬱、更年期に脱肛、脱腸、骨粗鬆症ほか疾病の原因となるが、これをケアする場所や助言する公の場は、入院中退院後の健診含めてどこにもない。 ① 筋力回復と運動能力改善のためのサロン活動 90分制 (水曜日)赤羽ノ(金曜日)志茂 3部構成 産後の身体と疾病・ダイエット講座30分 エクササイズ45分 悩み相談会15分(講座例)産後の身体、授乳や抱っこ姿勢、尿漏れ、食事、睡眠など8テーマをサイクルする。 ② オンライン産後セルフケアトレーニング 30分制(無料) ストレッチ、ヨガ、体幹トレーニングをZOOMで開催 ③ 青空ヨガ開催(無料) 浮間公園で年3回、ソーシャルディスタンスで開催 ④ 外部講師による講座 管理栄養士、助産師、保健師、薬剤師によるママ向け健康講座	500,000

地域づくり応援団事業助成金交付事業一覧

年度	事業名	提案団体	事業目的	事業内容	助成金額
4	わかちあい北区 彩り豊かな子育てコミュニティ	特定非営利活動法人 彩結び	産前産後の母親の孤立化を防ぎ、居場所探しをしているママたちのコミュニティ作りを行うこと。	対象：北区近隣にお住いのママやプレママ及び未就園児を持つママ 活動内容：「産前産後のママ仲間と話そう」と題したりフレッシュ交流会 各回テーマを決めて講師を呼び、ママと子どもにとって有益な情報を得られたり、一緒に楽しめる活動を盛り込む。 ＜2021年度の例＞ ～赤ちゃんのおもちゃ遊び、絵本選び編～ お茶を飲みながら元幼稚園教諭に月齢別に喜ぶおもちゃや遊び、絵本などを教えてもらいました。 活動場所： ・いろむすびcafe(赤羽駅より徒歩10分の地域コミュニティカフェ) ・リノア北赤羽つながるば。(北赤羽駅より徒歩3分。子育て世代の多いマンションの共用部。) 頻度：上記施設で月に各1回(5月より開始、8月12月は長期休暇の為開催無し 合計18回) 定員：6～8名(イベントや社会情勢により変動あり) 参加費：1000円+別途イベント内容によっては材料費徴収あり 広報方法：当団体各種媒体・北区ニュースに掲載(2021年度実績あり)	200,000
4	ーみる・しる・かたる-さくらシアターラボ	北とびあ演劇祭実行委員会	北区の抱える問題や特性を市民と共に調査、研究し作品作り(公演)を行う。 演劇作品として疑似体験する事により、想像だけでなく、実際にその状況に陥った時の予行演習にもなる他、講演後にはセットを解放し、観客の方にも疑似体験してもらい、演劇を通して防災への意識を高めてもらう。	「水害」をテーマとし、北とびあ演劇祭の会期中の関連企画公演として実施。 ① フィールドワークやレクレーションの実施。 参加者と専門家が、水害の起こりうる場所(河川敷や危険区域)をフィールドワーク。参加者で問題や課題を見つけ、ディスカッションなどを重ねて演劇作品を作成。 ② 舞台公演の実施 フィールドワーク、ディスカッションを経て演劇作品を上演。 避難所となりうる場所を会場にし、舞台美術も避難所として上演。 ③ 舞台終演後による専門家とのフォーラム 公演終了後(公演中の一回のみ)に専門家を招き、フォーラムを開催。 参加者と観客で専門家の意見を聞き、北区の水害への取り組みや問題について話し合い、意見交換する場を作る。 ④ 避難生活の疑似体験 毎公演後、舞台を解放し、セットである避難所を観客にも体験してもらう。	200,000
4	中高生演劇サマースクール2022	中高生演劇サマースクール実行委員会	中高生が演劇ワークショップを通して学生同士の交流を深め、人と関わる喜びや他者を尊重する大切さを体験することを目的とする。	① 演劇ワークショップ「1dayコース」の開催 演劇界で活躍する演出家を外部講師として招き、1回3時間×3クラス行う。身体を動かしたり、台本に書いている台詞を言ってみたりしながら、中高生同士が自己表現を行い、コミュニケーションを行う。 ② 演劇ワークショップ「集中コース」の開催 6日間のうち、前半3日間のワークショップで作品作りを、後半3日間で一般公開の発表の場を設ける。ワークショップでは中高生が実際に経験してきた思い出や想像、中高生同士のディスカッションによって作品を作っていく。演劇における照明や音響、舞台美術などの仕組みも、安全を考慮しながら中高生たちに体験してもらう。	200,000
4	北区夏休み子ども農業体験	一般社団法人 SHOIN	下記①～③の目的で事業を行います。 ①全ての子ども達が夏休みに思い出をつくる。 ②子ども達が非日常の体験活動を通じて自己肯定感を得る。 ③新たな大人達と触れ合うことで多様な価値観を知る。	◇参加者申込み 我々が運営することも食堂あゆみやフードパントリーららら利用者の他、北区社会福祉協議会、北区子ども食堂ネットワーク、北区フードパントリーネットワーク、北区子ども・若者応援ネットワーク、区内フリースクール運営者にご協力いただき、チラシを配布していただきます。誰でも参加ではなく、必要な子ども達に参加してもらいます。(定員：30名、対象：北区内園児～高校3年生男女) ◇体験活動前 参加者が安心して参加してもらえるよう、引率者自己紹介・農業体験説明をYouTubeを活用して動画配信します。 ■体験活動当日 【日時】2022年7月31日(日)7:00～18:00 【会場】千葉県大網白里市農家および白里海岸 【内容】行きのバス内でのアイスブレイク、苗付けや収穫といった農業体験、収穫した野菜でのバーベキュー、また当日参加した子ども達の様子を観察し、1人1人に「感謝状」を配布していきます。帰りのバス内での体験活動の振り返り 【引率】13名 一般社団法人SHOIN5名、学生ボランティア8名 【コロナ対策】その時の社会状況に応じて対応していきます。密を避け、マイクロバス2台で移動します。蔓延防止等重点措置の際は都内の吉田農場(練馬区)、緊急事態宣言中は三鷹オーガニック農園への会場変更も検討します。 ◇体験活動後 体験の映像を編集し、保護者や参加者と繋がりのある大人達へ、活動報告とYouTube限定公開(URLを知る方のみが視聴可能)をお渡しします。確認していただき、子ども達に声掛けしていただければと思っています。	200,000